

大学生の性に関する調査

—性に関する健康的なライフスタイルの形成からウェルビーイングの実現へ—

畔柳まゆみ¹⁾・石井ちひろ²⁾

1)山形大学地域教育文化学部 2)東北文教大学短期大学部付属幼稚園

現在性教育はすべての学校で実施されているが、自らの性行動をよりよく意思決定できるための知識及び態度の習得という観点から、義務教育さらに高等学校までの教育内容では不十分であることが示唆されている。大学生については、高校生よりも性的関心が高まり卒業後に性行動が活発になることが予想され、性に関わる意思決定の機会が増えることが考えられるが、健康でウェルビーイング（幸福）につながる選択ができるのであろうか。大学における性教育の必要性と支援内容を検討した結果、責任感を高め性に関するリスクを減らすための知識の習得と行動が求められ、異性の生殖にかかわるより詳細な知識やジェンダー平等、人権の尊重と多様性への肯定的な価値観などを育むための学びが必要であることが明らかになった。

キーワード：性教育 意思決定 性行動 ウェルビーイング

1. はじめに

学校における性教育については、2005年の中央教育審議会「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会「健やかな体を育む教育という観点から、今後学校教育活動全体で取り組むべき課題について」において、性教育として求められる内容について、子どもたちは社会的責任をとれない存在であることや性感染症を防ぐ観点から、子どもたちの性行為は適切ではないという考え方にに基づき、人間関係についての理解やコミュニケーション能力を前提とすべきであり、その理解上に性教育が行われるものであることが基本姿勢として示された。具体的には、心身の機能の発達に関する理解、性感染症の予防の知識などの科学的知識の理解、理性により行動を制御する力を養う、自分や他者の価値を尊重し相手を思いやる心を醸成するなど包括的性教育の内容と重なる。進め方として、教育課程に位置付けられた教育活動として学習指導要領に示された内容として、各教科、道徳、特別活動における性に関わる内容を中心に学校の教育活動全体を通じて指導すること、児童生徒の発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことが示されている。小学校の体育、中学校の保健体育の保健分野、特別活動における性に関わる内容として、小学校4年生では初経や精通などの二次性徴と異性への関心の芽生えについて、中学校では生殖に関わる機能の成熟と感染症予防の文脈で性感染症とHIV/AIDSを学習することになっている。また小学校特別活動では日常生活や学習への適応及び健康安全のなかで、中学校の特別活動では、適応と成長及び健康安全のなかの男女の相互理解と協力、そして性的な発達への適応のなかで性教育が実施されている。いずれの内容も「ただし妊娠の過程は扱わないこと」になっている。橋本ら（2011）によると、中学校卒業時にはセックスや避妊方法について知っておいてしかるべきだとの考え方に一般的になりつつあるという。また、北村ら（2015）は、中学生保護者の一般的な理解として、中学校を卒業するまでにセックス（性交渉）を知っておくべきだと考えるものが7割に達していること、そして避妊法とりわけコンドームの使い方についても6割が知っておくべきだと回答した結果を示している。

実際の青少年の性行動の状況については、第8回青少年の性行動全国調査報告(2019)によると、性教育の内容として、二次性徴や妊娠のしくみ、避妊の方法、性感染症といった内容が定着してきている一方で、性知識を問う質問の正答率が低下傾向にあり、とくに大学生の正答率の低下が顕著であった。なかでも、膣外射精、月経周期、性感染症の自覚症状の正答率が大きく低下していたことが明らかとなっている。さらに、性的関心については、高校生と比較し男女ともに大学生の方が関心があると回答した者が増加していること、性経験の有無により情報源が異なることが示されている。情報源を学校での性教育としているのは性経験がない者に多く、友人や先輩としているのは性経験がある者に多い。たとえば情報源としてインターネットを挙げた者は、性交に関する情報については性経験の有無に差はないものの、避妊に関する情報については性経験の有る者の利用が多い結果だった。このことから、性的関心、性経験がある者のほうが、自ら情報を探し知識を得ていく傾向が明らかになった。また、今野・西脇(2006)は、大学生の9割が性教育を受講してきているが、受講内容や性交・避妊に関する知識に差があるにもかかわらず「避妊をせず性行為を行う」という性行動には差がみられなかったことを報告している。このことから、学校における性教育は定着してきている一方で、性知識に関する内容の定着化や性行動をよりよく意思決定する態度の育成には繋がっていないことが指摘されている。ユネスコ(2020)による包括的性教育とは、性を人権の視点でとらえ、心や体、社会など幅広い側面から体系的に学ぶ性教育をさし、あらゆる性別が平等であり、多様な性のあり方を前提に性に関することを生殖だけでなくコミュニケーションや人間関係も含めて学べるものであり、セクシャリティの認知的、感情的、身体的、社会的側面についてのカリキュラムをベースにした教育と学習のプロセスである。具体的には、子ども・若者の①健康とウェルビーイング(幸福)・尊厳を実現すること、②尊重された社会的、性的関心を育てること、③自分の選択が、自分と他者のウェルビーイング(幸福)にどのように影響するのか考えること、④生涯を通じて、自分の権利を守ることを理解し励ますことを目指している。包括的性教育により、性交頻度の減少、性的パートナーの減少、リスクの高い行為の減少、コンドームの使用、避妊具の使用の増加がみられている。そして若者の性行動を促進することはなく、むしろ責任感を高めリスクの高い性行動を減らし慎重な行動につながるということが明らかになっている。日本でも包括的性教育の必要性が少しずつ理解されてきている昨今である。

本調査では、自らの人生を模索する過程で自らの性に向き合い自分事として強く認識できる大学生に、性教育の必要性和支援内容について検討し、性に関する健康的な習慣やライフスタイルの形成によりウェルビーイングの実現につながることを目的とする。

2. 方法

(1) 対象

A大学の学生

(2) 手続き

A大学の定期健康診断時、学生を対象にWeb形式のアンケート調査を実施する。

学生が定期健康診断を受ける際に、会場受付でアンケート記入先のQRコードを提示した説明書を配布し回答を依頼した。

(3) 回答期間

令和5年4月～8月末

(4) 調査内容

- ① これまで受けてきた性教育：内容、得られた知識の程度、性に関する情報源
- ② 性行動：性交経験の有無とその動機、初交年齢、避妊方法、避妊頻度、避妊をしない理由、妊娠と避妊に関する不安
- ③ 性についての困難感と性教育の必要性：困難感の有無と内容及び対応方法、性教育の受講希望の有無と受講内容

(5) 分析方法

- ① 各調査結果について、全体、男女別に平均値を求める。
- ② 男女間の差を検討するためにカイ二乗検定を実施する。

3. 結果

回答者の属性については、性別、年齢、を訪ねた。有効回答 700 の回答者の属性は以下のとおりである。

性別は、男性 295 名、女性 388 名、その他 17 名

年齢は、18 歳と 19 歳が約 65% を占めている。

(1) 回収状況と属性

n=700

年齢 性別	18 歳	19 歳	20 歳	21 歳	22 歳	23 歳 以上	合計 (%)
男性	99	108	35	30	9	14	295 (42.1)
女性	132	110	51	49	24	22	388 (55.4)
その他	3	5	5	3	1	0	17 (2.4)
全体 (%)	234 (33.4)	223 (31.9)	91 (13.0)	82 (11.7)	34 (4.9)	36 (5.1)	700

※ 性別の「その他」は少数のため、分析の対象外とした。

※ 年齢は、23 歳以上はそれぞれの年齢段階が少数のため、一つの年齢としてまとめた。

(2) 各質問項目の詳細については、<資料>のとおりである。

男女差がある項目については、カイ二乗検定による P 値を記載した。

有意水準：(P<0.05) *，(P<0.01) **

① これまで受けてきた性教育と性に関する知識について

<これまで受けてきた性教育について>

「特に教わったことがない」と回答したものは 1 名のみでほとんど全員が受講している。内容については、全体では「妊娠のしくみ」が最も多く HIV/エイズ、避妊の方法の順だった。男女の上位 3 項目は男性では「妊娠のしくみ」、「男性の体のしくみ」、「避妊の方法」であり、女性は「妊娠のしくみ」、「HIV/エイズ」、「女性の体のしくみ」である。これまで受けてきた性教育が役に立っているかでは、「役に立つ」が最も多く、「あまり役に立たない」、「非常に役に立つ」の順だった。6 つの選択肢のうち、「非常に役に立っている」、「役に立っている」を『役に立っている』、「あまり役に立たない」、「全然役に立たない」を『役に立たない』として両者を比較すると 75.9% が『役に立っている』という結果だった。

<性に関する知識>

第 8 回青少年の性行動全国調査報告(2019)との比較では、「HIV/エイズ」の項目を除いてすべての項目で正答率が上回っている。男女別の比較では、男性は精液と膣外射精に関する正答率が高く、女性では「排卵」、「性感染症」、「ピル」に関する正答率が高かった。

② 性行動について

<セックス(性交)経験の有無・初めて性交経験した年齢とその動機・どう感じたか>

セックス(性交)経験「あり」は、全体では約 3 割程度で男女とも同傾向である。初交時の年齢は、13 歳から 25 歳まで分布している。全体では 16 歳から 10% を上回り、18 歳、19 歳が 15% 以上、ピークは 18 歳の 18.3% である。男女別では、男性のピークは 17 歳、18 歳、次いで 16 歳の順、女性のピークは 19 歳、次いで 18 歳、20 歳の順である。セックス(性交)の動機は、全体及び女性では「好き」が最

も多く、「経験したい」、「愛してた」の順であるが、男性では、「好き」、「愛してた」、「経験したい」の順である。セックス（性交）はどのように感じたかは、全体、男女とも「よかった」が最も多く、「どちらともいえない」、「しなければよかった」の順である。「よかった」は男性に多く、「しなければよかった」、「どちらともいえない」は女性に多い。そのように感じた理由では、全体では「好きな人と深い関係になれた」が最も多く、「愛情を感じた」、「気持ちよかった」の順である。男性では、「好きな人と深い関係になれた」、「気持ちよかった」、「愛情を感じた」、女性では、「好きな人と深い関係になれた」、「愛情を感じた」、「相手が喜んだ」の順である。男性では「気持ちよかった」が女性より多く、女性では「気持ちよくなかった」が男性よりも多い。一方、セックス（性交）をしない理由は、全体では「相手がいなかった」が最も多く、「年齢的に早すぎる」、「不安・恐怖」の順である。男女とも上位2項目は全体と同様であるが、男性では次いで「妊娠が気になる」、女性では「不安・恐怖」である。「相手がいなかった」は男性に多いが、女性では「方法がわからない」、「性的欲求がない」、「性そのものに嫌悪感がある」、「妊娠が気になる」、「不安・恐怖」が男性よりも多い。

<性交時の避妊について（性交経験あり）>

全体ではほとんどがセックス（性交）時に避妊を「いつもしている」と回答している。男性では「いつもしていない」と回答した者はいなかった。避妊方法は「コンドーム」が最も多く、「ピル」、「膣外射精」の順である。男性のすべてが避妊方法としてコンドームを使用している。女性でも「コンドーム」が最も多く、次いで「ピル」である。避妊を「場合によってする」、「いつもしていない」の理由として、男性では（相手に）「断られた」、「その他」として「気持ちよさが減ってしまうから」、「結婚して子供を望むから」、「言い出せない」、女性では、「雰囲気壊したくない」、「好き」、そして「面倒」、「避妊具がない」、「準備が間に合わない」、「断られた」（同率）の順である。

<性交時に妊娠と性感染症の可能性が気になるか>

妊娠の可能性及び性感染症の可能性は同傾向で「非常に気になる」、「多少気になる」、「あまり気にならない」、「気にならない」の順である。「非常に気になる」と回答したものが妊娠の可能性のほうに多い。

③ 性に関する困難感とその対処法について

性に関する困難感については、「あり」26.0%、「なし」74%である。困難感「あり」の回答のうちその内容については、多い順に「セックスに関すること」、「避妊に関すること」、「性器に関すること」の順である。女性では「避妊に関すること」が最も多く、男性より「避妊に関すること」、「性的マイノリティに関すること」が多い。困難を抱えた時の対処法については、多い順に「インターネットで検索」、「自分自身で解決」、「友人・先輩に相談」である。女性では「病院を受診」が男性よりも多い。困難感「なし」と回答した者で今後困ったことが起きた場合どのように対処したいかでは、困難感「あり」の対処法と同様、「インターネットで検索」が最も多いが、次いで「病院を受診する」、「友人・先輩に相談する」の順である。

④ 性教育の必要性について

性教育の受講希望については、「あり」67.3%、「なし」32.7%で女性のほうが受講希望「あり」が多い。受講希望「あり」の理由は、多い順に全体では「必要な知識」、「知識が必要」、「知識がなく困った経験がある」である。受講希望「なし」の理由は、多い順に「困ってないから」、「特に必要がない」、「面倒」で男女ともに同傾向である。受講方法は、受講希望「あり」、受講希望「なし」とともに「オンデマンド配信」が最も多く、「大学のHPに資料掲示」、「大学の講義内」の順である。希望する内容は、受講希望「あり」、受講希望「なし」とともに「性感染症」が最も多い（受講希望「あり」64.5%、受講希望「なし」40.6%）。受講希望「あり」では、次いで「HIV/エイズ」、そして「避妊の方法」と人「工妊娠中絶」（同率）、受講希望「なし」では、「性的マイノリティ」、「HIV/エイズ」の順である。

⑤ 性に関する情報源について

セックス（性交）については、全体では「ネット」、「学校」、「友人・先輩」の順に多い。避妊方法で

は「学校」、「ネット」、「友人・先輩」の順で男女とも同傾向である。セックス（性交）については、「ネット」、「友人・先輩」、「ポルノ雑誌」、「アダルト動画」が男性に多く、「親・兄妹」、「パートナー」、「漫画」が女性に多い。避妊については、「ネット」、「友人や先輩」、「ポルノ雑誌」、「アダルト動画」が男性に多い。

4. 考察

大学生は自らの言動についてほぼ自立しこれからの人生を考える時期でもある。そのような大学生に性の問題をどのように考えて生きていくのか、一人一人が自らの考えをもちライフプランに沿ってよりよい意思決定をしながら自分らしい人生を歩んでいくことを願う。

本調査対象学生がこれまで受けてきた性教育では、学習指導要領が提示する内容ではほとんどが「受けた」と回答している。それ以外の内容ではばらつきがあり、指導者の価値観と必要性、そして受講者の興味関心や必要感による主体性が影響していることが考えられる。性知識では全国調査と比較して、HIV/エイズ以外はすべての項目で正答率が高いが、排卵及び精液に関する内容など異性の生殖機能のより詳細の内容については男女差がみられ、異性の身体に対する理解といったことでは男女とも課題がある。避妊についてはこれまでの学校教育のなかで触れられている内容ではあるが、自分事として捉えられない者や性に関することに抵抗を示す者については知識として定着しにくいことが考えられる。概ね性に関する知識については一定程度学校の性教育が貢献していると考えられ、加えてインターネットも個々の必要性に応じて学校以外で得られる情報として性知識を高めていることが推測される。

性教育の受講希望「あり」と回答した者はその理由として、「知識が必要」、「必要な知識だから」など性について学ぶ価値を認識している回答がほとんどである。また「その他」の回答で「セクハラ基準が日々変化しているから」という理由など性について包括的に学ぶ必要性をもつ者も少なくない。反面「困っていない」、「特に必要がない」、「面倒だから」などの理由で3割程度が受講希望「なし」と回答しており、「性に関することを聞くと気分が悪くなる」という回答も数件あった。希望する性教育の内容では、受講希望「あり」は性行動の可能性を想定し主体的に考える傾向があり、受講希望「なし」ではジェンダーや多様な性のあり方などより包括的な内容を学ぶ要求が示された。

性に関する困難感「あり」と回答した者の内容では、男性では「セックス（性交）」に関することが最も多いが、女性では「避妊に関すること」が最も多く、対処法としては自力解決の傾向であるが女性は「病院を受診」が男性よりも多かった。さらに詳細を調査する必要があるが、予期せぬ妊娠など女性の方が性に関するリスクを負う傾向が高いことが考えられることや性行動後の感想などから男女間の意識のずれが否めない状況がうかがえる。林（2013）によると、性に関するリスク回避のためには確実性の高い避妊の実行が課題となり初交年齢の低い者はその後の避妊も十分に実行できていないことが示され、パートナーに自らの意思を伝えるという性に関する自己決定権を行使するコミュニケーションスキルを身につけることの重要性が示唆されている。石川ら（2016）は、避妊に関する知識と実際の行動の関連にはジェンダー差があることを確認しており、確実性の高い避妊を実行するためには、正しい知識はもちろんのことそれを実行に移せるような力としてジェンダー平等意識を身につけることの必要性を明らかにしている。本調査結果では、セックス（性交）経験がある者の動機は相手に好意を抱く者が多いが、「経験したかった」、「好奇心」と回答した者も3割から4割程度である。また経験してみてどう思ったかについては、概ね「よかった」と回答しているが、「しなければよかった」、「どちらともいえない」と回答した者が女性に多い。そのように感じた理由として、「気持ちよくなかった」、「愛情が感じられなかった」などが女性に多く、女性はセックス（性交）を経験した結果必ずしもプラスイメージをもつとは限らないことが示された。また避妊については全体では9割以上が実施しているものの、妊娠の可能性や性感染症がとても気になると回答した者の割合は6～7割程度である。さらに避妊を実施しない理由は、「雰囲気壊したくない」、「避妊の準備が間に合わない」、「避妊具を買うのが面倒」などで、セックス（性交）に伴う妊娠の可能性を熟慮した行動がとれているとはいえない。情報源からみてもセックス（性交）及び避妊については、どちらもネットを情報源としている者が半数以上であり、他とコミュ

ニケーションを通して確実な情報を得るという点では課題である。特に避妊の方法についてはパートナー同士というよりは女性に委ねられている傾向がうかがえる。

以上より、性に関すること（たとえばセックス（性交）するのかもしれないか、避妊をするのかもしれないか）など性についての学びを通して自分はどのように考えていくべきなのか、パートナーとコミュニケーションを通して適切に意思決定できる力が必要である。そのような力をもつことの価値をどの学生も知識として知り実際に行動できるように学ぶ必要がある。これまで学んできた性教育に加え包括的な内容をあらためて学ぶなかで、性に関することに自らの考えをもちパートナー同士でセックス（性交）や避妊について話し合える関係性を築いていくことが、自他の健康そしてウェルビーイング（幸福）を叶えることにつながるのではないかと考える。今後、大学生がそのような力を携えて社会の担い手になっていくことは、広く地域全体の性に関する意識変革につながり次代を担う子どもたちにも浸透していく可能性を秘めている。

引用・参考文献

- 文部科学省(2018)「小学校学習指導要領体育編」,東洋館出版
 文部科学省(2018)「中学校学習指導要領保健体育編」,東洋館出版
 中央教育審議会(2005)「健やかな体を育む教育という観点から、今後学校教育活動全体で取り組むべき課題について ―学校における性教育の考え方・進め方―」(答申),健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会審議状況のまとめ,文部科学省
 ユネスコ(2022)「【改訂版】国際セクシャリティ教育ガイダンス 科学的根拠に基づいたアプローチ」,明石書店
 橋本紀子・篠原久枝・田代美江子・鈴木幸子・広瀬裕子・池谷壽夫・良香織・小宮明彦・渡部真奈美・茂木輝順・森岡真梨(2011)「日本の中学校における性教育の現状と課題」,女子栄養大学『教育学研究室紀要:「教育とジェンダー」研究』9巻, pp. 3-20
 林雄亮(2013)「青少年の性行動の低年齢化・分極化と性に対する新たな態度」,『「若者の性」白書 第7回 青少年の性行動全国調査報告』, pp. 25-42
 石川由香里・土田陽子・中澤智恵美(2016)「ジェンダー規範の性行動に及ぼす影響と性教育の課題」,活水論文集,第59集, pp. 19-35
 片瀬一男(2001)「性行動の低年齢化が持つ意味」,『「若者の性」白書 第5回 青少年の性行動全国調査報告』, pp. 23-46
 北村邦夫(2015)『性教育の新しい課題について考えるヒントを得る ―「第7回男女の生活と意識に関する調査」結果から―』,現代性教育研究ジャーナル, No. 49, pp. 1-7
 今野木綿子・西脇美香(2006)「大学生における性知識・性モラルと性行動との関係」,山形保健医療大学紀要,第9巻, pp. 33-47
 中澤智恵(2019)「知識・態度・行動の観点から見た性教育の現状と今後の課題」『「若者の性」白書:第8回 青少年の性行動全国調査報告』,小学館, pp. 90-104
 齊藤佳余子・二川香里・松井弘美・岡本麻代・永山くに子(2015)「高等学校教諭の性教育に抱いている課題と期待―外部支援者との連携の視点から―」,母子衛生,第55巻4号, pp. 635-642

<資料>

1 これまで受けてきた性教育について

① 内容

n=700

受けてきた性教育の内容	妊娠のしくみ	セックス(性交)	避妊の方法	人工妊娠中絶	自慰(マスターベーション)	HIV/エイズ	性感染症	男女の心のちがい	恋愛	男女平等の問題	デートDV	セクハラ・性暴力	性的マイノリティ	男性の体のしくみ	女性の体のしくみ	性に関する相談窓	その他	とくに教わったことがない
全体	95.9	54.7	90.1	63.0	40.6	92.0	81.0	68.4	43.0	65.1	67.9	67.1	57.4	88.7	89.0	25.4	0.0	0.6
男性	93.3	60.7	90.5	65.8	53.9	89.8	84.7	78.0	48.8	67.5	67.1	74.6	61.4	91.5	84.4	28.5	0.0	1.4
女性	97.7	51.3	89.7	61.6	30.4	93.3	78.4	62.6	39.7	63.9	68.3	62.6	55.7	87.9	93.0	23.7	0.0	0.0

② 今まで受けてきた性教育が役に立っているか

性教育が役に立っているか	非常に役に立っている	役に立っている	あまり役に立たない	全然役に立たない	わからない	性教育を受けたことがない
全体	16.7	52.6	18.7	3.3	8.4	0.1
男性	18.3	48.5	17.6	5.4	9.8	0.3
女性	16.0	55.2	19.8	1.3	7.7	0.0
男女差P値	0.423	0.046*	0.463	<0.001**	0.353	0.251

③ 性知識

性に関する知識	排卵はいつも生理中に起こる	精液がたまることからだに悪い	性感染症にかかると必ず症状が出る	クラミジアや淋病など性感染症を治療しないと不妊症になる場合がある	日本では10年間、あらたにHIVに感染する人とエイズ患者は減少している	膈外射精は、確実な避妊方法である	ピルの避妊成功率はきわめて高い	コンドームは、性感染症予防には効果があるが、避妊率は100%ではない	中絶できる週数は、妊娠22週未満である	緊急避妊薬は性交後72時間以内に服用することで避妊に効果はあるが、避妊率100%ではない
山形大	58.9	41.9	92.7	78.0	12.9	88.7	54.4	93.1	43.3	75.4
全国	43.4	24.5	65.7	52.8	42.2	69.6	42.2			

性に関する知識	排卵はいつも生理中に起こる	精液がたまることからだに悪い	性感染症にかかると必ず症状が出る	クラミジアや淋病など性感染症を治療しないと不妊症になる場合がある	日本では10年間、あらたにHIVに感染する人とエイズ患者は減少している	膈外射精は、確実な避妊方法である	ピルの避妊成功率はきわめて高い	コンドームは、性感染症予防には効果があるが、避妊率は100%ではない	中絶できる週数は、妊娠22週未満である	緊急避妊薬は性交後72時間以内に服用することで避妊に効果はあるが、避妊率100%ではない
全体	58.9	41.9	92.7	78.0	12.9	88.7	54.4	93.1	43.3	75.4
①男性	37.3	60.0	90.8	76.9	12.9	91.5	51.2	90.8	40.0	74.9
②女性	77.8	28.1	98.7	78.6	12.9	86.3	56.7	94.8	45.9	76.0
男女差P値	<0.001**	<0.001**	<0.001**	0.671	0.635	0.046*	<0.001**	0.585	0.145	0.806

2 性行動について

① セックス (性交) について

<セックス (性交) 経験の有無と初交年齢>

n=207

性交経験の有無	初交年齢	
	あり	なし
全体	29.2	70.8
男性	28.8	71.2
女性	29.2	70.8

初交年齢	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
全体	1.0	1.5	4.5	11.4	10.9	18.3	16.8	13.9	2.5	1.0	0.5	0.5	0.0
男性	1.2	2.4	4.8	14.5	16.9	16.9	9.6	12.0	3.6	2.4	0.0	0.0	1.2
女性	0.9	0.9	3.5	9.7	7.1	21.2	23.0	15.9	4.4	1.8	0.9	0.9	0.0

<セックス (性交) の動機・きっかけ>

動機・きっかけ (性交経験あり)	愛してた	好き	好奇心	経験したい	遊び・お酒	強要	なんとなく	その他
全体	37.1	66.3	29.2	41.1	3.0	3.5	5.4	0.5
男性	43.4	61.4	30.1	41.0	2.4	3.6	2.4	0.0
女性	33.6	73.5	29.2	43.4	3.5	3.5	8.0	0.0

<セックス (性交) をしてどう感じたか>

性交はどのよう感じたか	よかった	かたくなければよかった	などいちらともいえ
全体	70.6	8.9	20.6
男性	82.2	4.1	13.7
女性	62.9	12.4	24.8

性交はどのよう感じたか	よかった	しなければよかった・どちらともいえない
男性	82.2	17.8
女性	62.9	37.1
男女差 P値	0.009 **	

<そのように感じた理由>

どのよう感じた理由	深い関係	気持ちよかった	愛情を感じた	大人の仲間入り	相手が喜んだ	好きな相手ではなかった	気持ちよくなかった	愛情感じられなかった	想像していたのと違った	早すぎた	その他
全体	55.9	35.6	45.5	18.3	30.2	5.0	10.4	3.5	14.9	5.9	1.0
男性	60.2	53.0	43.4	21.7	36.1	2.4	3.6	0.0	9.6	3.6	2.4
女性	54.9	23.9	48.7	16.8	27.4	7.1	15.9	6.2	19.5	8.0	0.0
男女差 P値	0.545	<0.001 **	0.555	0.499	0.052	0.254	0.012 *	0.549	0.094	0.340	0.348

<セックス (性交) をしない理由>

n=490

性交経験なしの理由	た相手がいなかった	方法がわからなかった	年齢的に早すぎ	性的欲求がない	悪感そのものに嫌	めんどうくさい	なる性感染症が気になる	妊娠が気になる	結婚するまでセックスすべきでない	不安・恐怖	特に理由がない	その他
全体	73.9	7.3	36.1	14.3	8.6	7.1	8.6	23.5	10.6	25.9	9.8	2.4
男性	82.9	3.9	32.2	6.3	2.9	7.3	5.4	18.0	9.8	12.7	9.8	3.4
女性	66.1	10.2	39.1	19.7	10.9	6.6	10.2	27.0	10.9	35.8	9.9	1.1
男女差 P値	<0.001**	0.016*	0.147	<0.001**	0.002**	0.891	0.07	0.029*	0.786	<0.001**	1.000	0.152

② セックス (性交) 時の避妊について

<避妊の頻度> n=207

性交時の避妊の頻度	いつもしている	場合による	していません
全体	91.6	7.3	1.1
男性	91.7	8.3	0.0
女性	91.4	6.7	1.9

<避妊方法：いつもしている・場合による> n=184

避妊の方法	コンドーム	ピル	IUD	タイミング法	膣外射精
全体	98.3	20.0	0.0	1.1	8.9
男性	100.0	16.4	0.0	2.7	8.2
女性	97.1	22.9	0.0	0.0	8.6

<避妊をしない理由：場合による・いつもしない>

n=15

理由	好き	妊娠しない	避妊面倒	面倒	避妊具買うのが	壊したくない	雰囲気	避妊具なかった	間に合わない	準備が	避妊具知らない	言い出せない	断られた	中絶すれば良い	その他
全体	20.0	0.0	6.7	0.0	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7	20.0	0.0	0.0	33.3	
男性	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	33.3	
女性	33.3	0.0	11.1	0.0	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.8	

③ 妊娠や性感染症が気になるか

<妊娠の可能性が気になるか> n=207

妊娠の可能性について気になるか	非常に気になる	多少気になる	あまり気にならない	全然気にならない
全体	73.2	24.0	1.7	1.1
男性	74.0	21.9	2.7	1.4
女性	72.1	26.0	1.0	1.0

<性感染症が気になるか> n=207

性感染症の可能性について気になるか	非常に気になる	多少気になる	あまり気にならない	全然気にならない
全体	60.0	33.9	4.4	1.7
男性	63.0	31.5	2.7	2.7
女性	57.1	36.2	5.7	1.0

3 性に関する困難感とその対処法>

① 困難感の有無

困難感の有無	あり	なし
全体	26.0	74.0
男性	23.4	76.6
女性	26.3	73.7

② 困難感の内容 (困難感あり)

n=182

困難感の内容	と避妊に関すること	と妊娠に関すること	セックスに関すること	と自慰に関すること	と性器に関すること	性器以外の体に関すること	性暴力に関すること	性的マイノリティに関すること	性的同意に関すること	その他
全体	37.4	18.7	43.4	12.1	34.6	23.1	3.8	16.5	12.1	2.2
①男性	26.1	11.6	49.3	11.6	36.2	30.4	0.0	4.3	8.7	4.3
②女性	48.0	23.5	41.2	12.7	34.3	18.6	6.9	16.7	12.7	1.0
男女差P値	0.002**	0.079	0.374	1.010	0.925	0.108	0.067	0.027*	0.057	0.360

③ 困難感の対処方法 (困難感あり)

(困難感あり) 困難感の対処法	両親に相談	兄妹に相談	友人・先輩に相談	インターネットで検索	大学の保健センターに相談	病院を受診	電話相談を利用	自分自身で解決	今も悩んでいる	相談窓口を利用	その他
全体	13.2	1.6	20.3	69.2	2.2	11.5	1.6	32.4	0.0	0.5	3.8
男性	10.1	1.4	13.0	69.6	0.0	2.9	0.0	33.3	0.0	0.0	4.3
女性	15.7	1.0	24.5	69.6	2.9	18.6	2.9	28.4	0.0	0.0	2.9
男女差P値	0.416	1.000	0.094	1.000	0.399	<0.001**	0.399	0.607			0.947

④ 困難感の対処方法 (困難感なし) (今後困難感を持ったら)

n=518

(困難感なし) 困難感の対処法	両親に相談	兄妹に相談	友人・先輩に相談	インターネットで検索	大学の保健センターに相談	病院を受診	電話相談を利用	自分自身で解決	今も悩んでいる	相談窓口を利用	その他
全体	24.1	6.0	38.4	66.6	38.6	47.3	15.1	25.1	18.0	0.4	0.0
男性	15.5	4.4	33.2	64.6	25.2	46.5	16.8	24.8	18.6	0.0	0.0
女性	31.5	7.3	43.0	67.8	30.8	47.2	13.6	24.8	17.1	0.7	0.0

4 性教育受講希望について

<受講希望の有無>

n=700

受講希望の有無	あり	なし
全体	67.3	32.7
男性	59.7	40.3
女性	72.4	27.6
男女差 P値	<0.001 **	

<受講希望あり：その理由> n=471

受講したい理由	知識が必要	経験がなく困った	知識がない	必要な知識	その他
全体	67.7	10.2	69.9	1.7	
男性	72.7	8.5	71.0	2.8	
女性	63.7	11.0	70.1	1.1	

<希望する受講方法：受講希望あり>

受講希望あり（受講方法あり）	大学の講義内	大学の研修会	配信	オンデマンド	資料のHP	その他
全体	29.3	10.0	68.8	40.1	0.4	
男性	30.1	11.9	68.8	36.4	0.6	
女性	29.5	8.9	68.3	43.4	0.4	

<受講希望内容：受講希望あり>

（受講希望あり）	妊娠のしくみ	セックス（性交）	避妊の方法	人工妊娠中絶	自慰（マスターベーション）	HIV/エイズ	性感染症	男女の心のちがい	恋愛	男女平等の問題	デートDV	性暴力	セクハラ・マイトリテイ	性的なしくみ	男性の体のしくみ	女性の体のしくみ	性に関する相談窓口	その他
全体	26.1	44.2	52.0	52.0	27.8	55.8	64.5	36.7	30.1	32.5	33.1	36.3	51.2	24.0	26.8	27.0	0.6	
男性	29.5	51.7	52.3	52.3	36.4	58.0	65.9	48.3	37.5	41.5	36.4	36.4	49.4	31.8	38.6	23.3	0.6	
女性	23.8	39.9	53.4	52.3	22.1	55.2	65.1	29.2	25.3	26.0	30.2	35.9	51.2	19.2	19.6	28.5	0.7	

<受講希望なし：その理由>

n=229

受講したくない理由	面倒だから	特に必要がない	時間がない	困っていない	知らない	その他
全体	29.3	34.9	16.2	60.7	2.6	7.0
男性	31.1	39.5	19.3	58.8	3.4	3.4
女性	27.1	29.9	13.1	63.6	1.9	10.3

<希望する受講方法：受講希望なし>

受講希望なし（受講方法なし）	大学の講義内	大学の研修会	配信	オンデマンド	資料のHP	その他
全体	17.5	3.9	63.3	35.3	1.3	
男性	18.5	5.0	63.0	35.3	1.7	
女性	16.8	2.8	62.6	36.4	0.9	

<受講希望内容：受講希望なし>

(受講希望なし)	妊娠のしくみ	セックス(性交)	避妊の方法	人工妊娠中絶	自慰(マスターベーション)	HIV/エイズ	性感染症	男女の心のちがい	恋愛	男女平等の問題	デートDV	セクハラ・性暴力	性的マイノリティ	男性の体のしくみ	女性の体のしくみ	性に関する相談窓口	その他
全体	11.4	21.8	27.5	29.3	13.5	34.5	40.6	25.8	23.1	21.0	23.6	21.4	37.6	10.5	11.4	21.8	2.2
男性	12.6	21.8	25.2	26.1	12.6	39.5	43.7	28.6	28.6	23.5	17.6	19.3	31.9	13.4	14.3	25.2	3.4
女性	9.3	20.6	29.0	31.8	15.9	28.0	36.4	22.4	17.8	17.8	29.0	22.4	42.1	6.5	6.5	17.8	0.9

5 性に関する情報源

<セックス(性交)について>

n=700

セックス(性交)に関する情報源	親・兄弟	友人・先輩	パートナー	学校	漫画	雑誌	ポルノ雑誌	アダルト動画	ネット	特になし	その他
全体	6.0	39.9	16.3	43.7	29.3	3.9	4.1	21.7	68.0	8.1	1.0
男性	3.1	46.8	9.8	42.4	20.7	5.4	8.8	39.0	72.9	7.8	1.4
女性	8.5	35.1	21.6	44.6	35.6	2.8	0.8	8.8	63.9	8.2	0.5
男女差P値	0.006**	0.003**	<0.001**	0.617	<0.001**	0.128	<0.001**	<0.001**	0.016*	0.942	0.452

<避妊の方法について>

n=700

避妊の方法に関する情報源	親・兄弟	友人・先輩	パートナー	学校	漫画	雑誌	ポルノ雑誌	アダルト動画	ネット	特になし	その他
全体	5.0	22.6	10.0	68.4	11.7	2.9	1.9	6.9	58.6	4.6	0.7
男性	3.4	26.8	8.1	67.1	9.2	4.1	4.1	13.9	64.1	3.7	1.0
女性	6.4	20.1	11.6	69.1	13.7	1.8	0.3	1.8	54.4	5.2	0.3
男女差P値	0.106	0.050	0.174	0.645	0.085	0.128	<0.001**	<0.001**	0.014*	0.483	0.434